

県立広島大学大学院総合学術研究科における大学院生の教育研究環境に関するアンケート調査報告（令和6年度実施）

実施期間 令和7年2月5日（水）～令和7年3月24日（月）

アンケート対象者：162名（人間文化学専攻23名、情報マネジメント専攻11名、生命システム科学専攻56名、保健福祉学専攻72名）

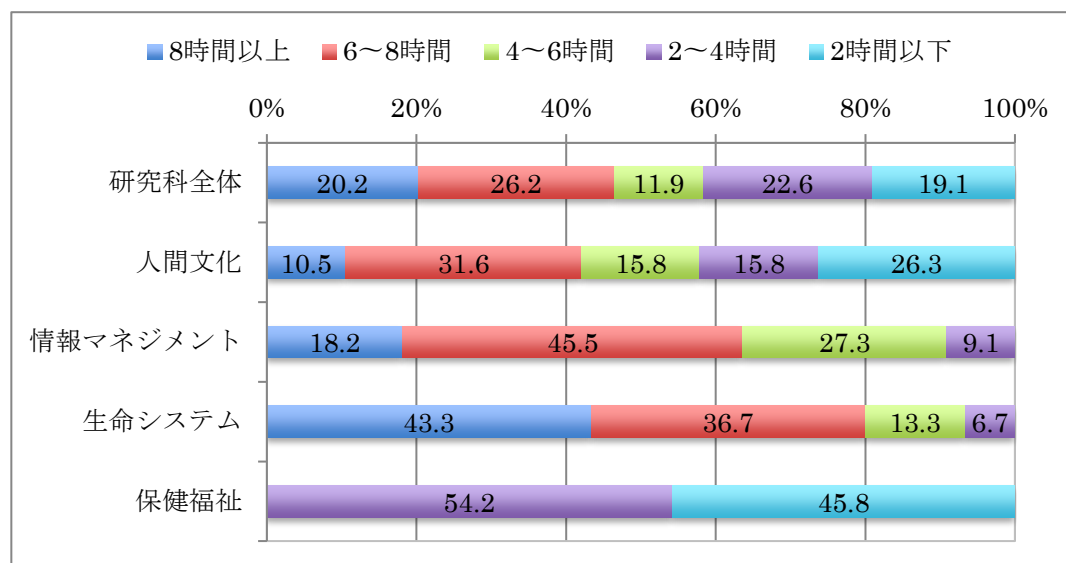
回収数：84名（人間文化学専攻19名、情報マネジメント専攻11名、生命システム科学専攻30名、保健福祉学専攻24名）

令和6年度アンケート調査では、総計84名（51.9%）の院生が回答した。専攻毎の回収率は、人間文化学専攻82.6%、情報マネジメント専攻100%、生命システム科学専攻53.6%、保健福祉学専攻33.3%であった。

※令和5年度回答率：研究科全体（75.8%）、人間文化学専攻（83.3%）、情報マネジメント専攻（100%）、生命システム科学専攻（64.9%）、保健福祉学専攻（79.2%）

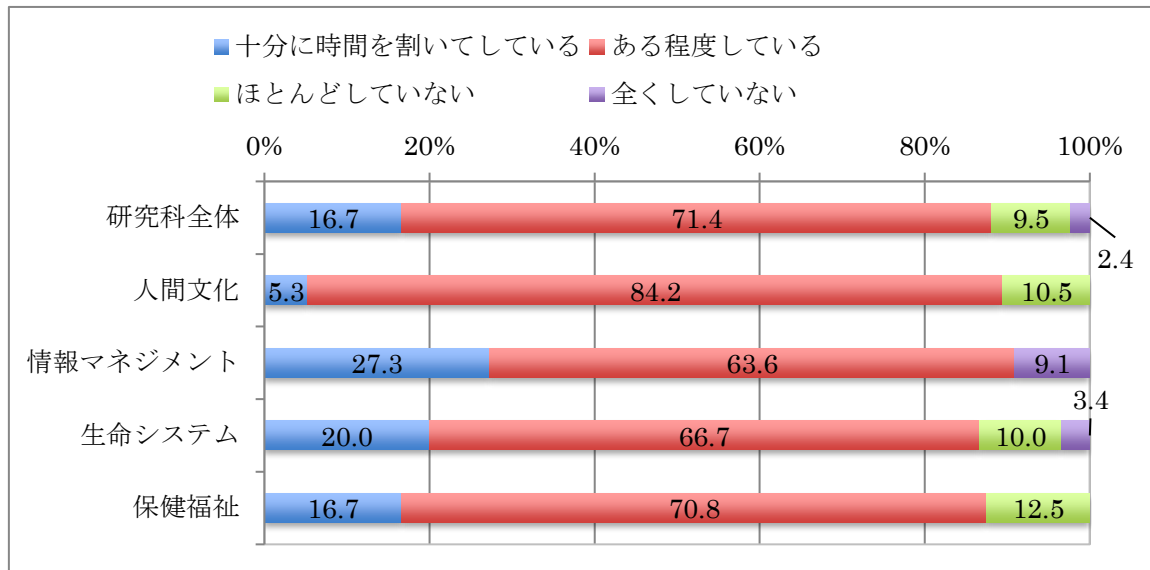
【学習・研究・授業に関する質問】

1. あなたが学修や研究に充てる1日あたりの時間。



学修や研究に充てる1日あたりの時間については、専攻の特性により分布が異なっている。保健福祉学専攻など社会人の多い専攻では、1日あたりの学習や研究にあてる時間が少なくなっているが、長期履修制度の活用により、計画的に教育課程を履修し、研究時間を確保している。

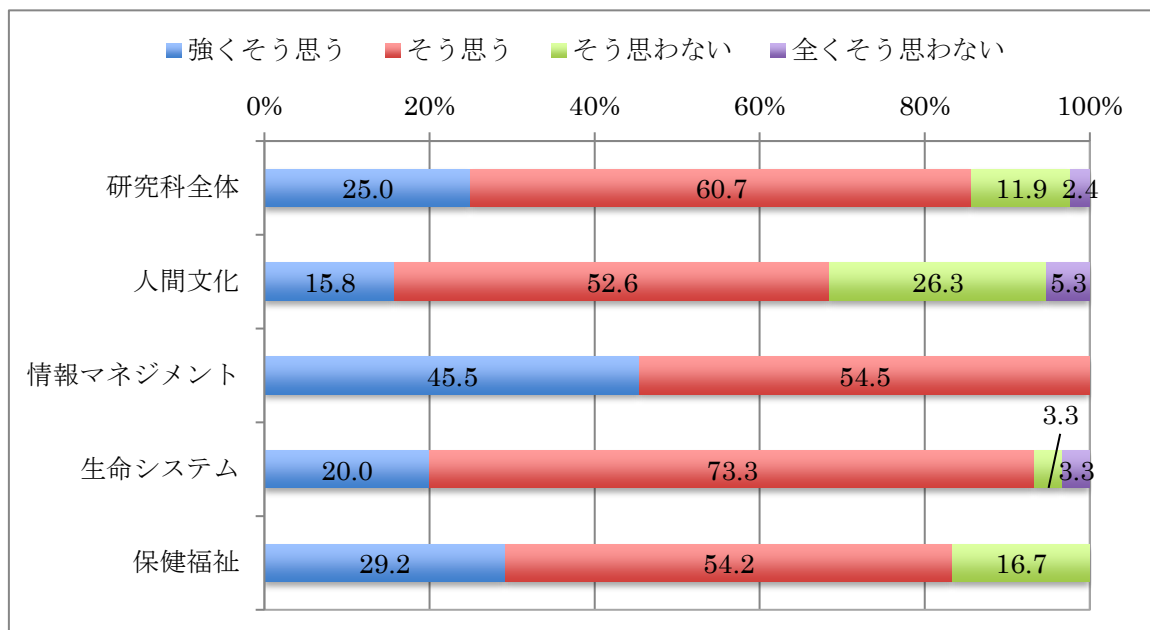
2. 履修している授業のために、授業外学修（課題、準備、復習等）をしている。



研究科全体で肯定的な回答は88.1%であった。

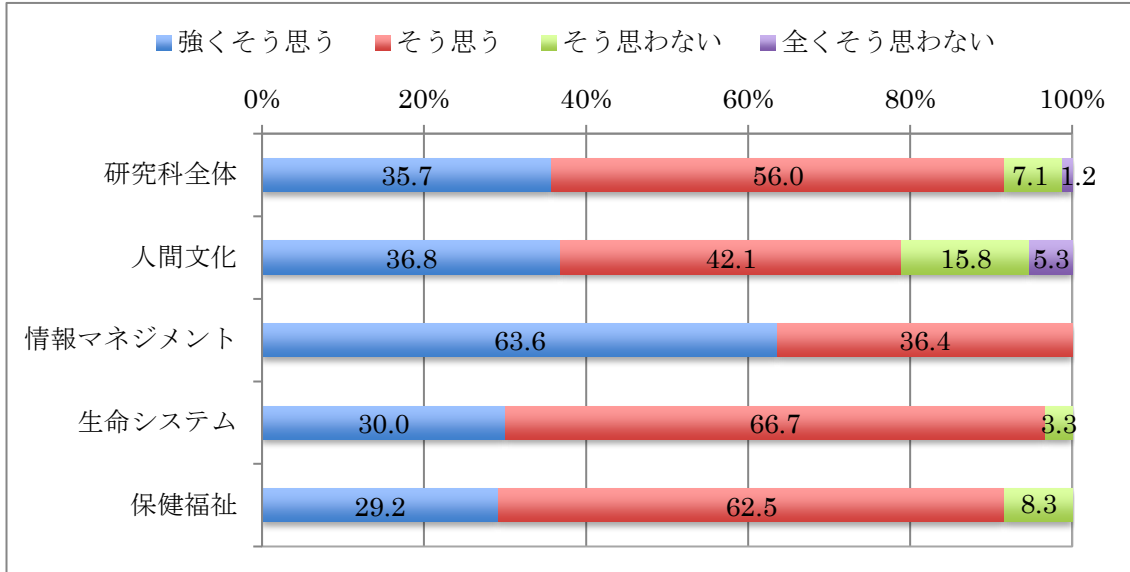
いずれの専攻も約80%以上の学生が「十分に時間を割いている」「ある程度している」と回答しており、意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

3. あなたが履修した、又は履修している授業は、目標が明確で体系的に行われている。



研究科全体で、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した割合は85.7%であり、授業の目標は明確で、体系的と感じている。一方で、人間文化学専攻で31.6%、保健福祉学専攻で16.7%が「そう思わない」又は「全くそう思わない」と回答しており、授業目標の明確化と体系化についての改善が求められている。

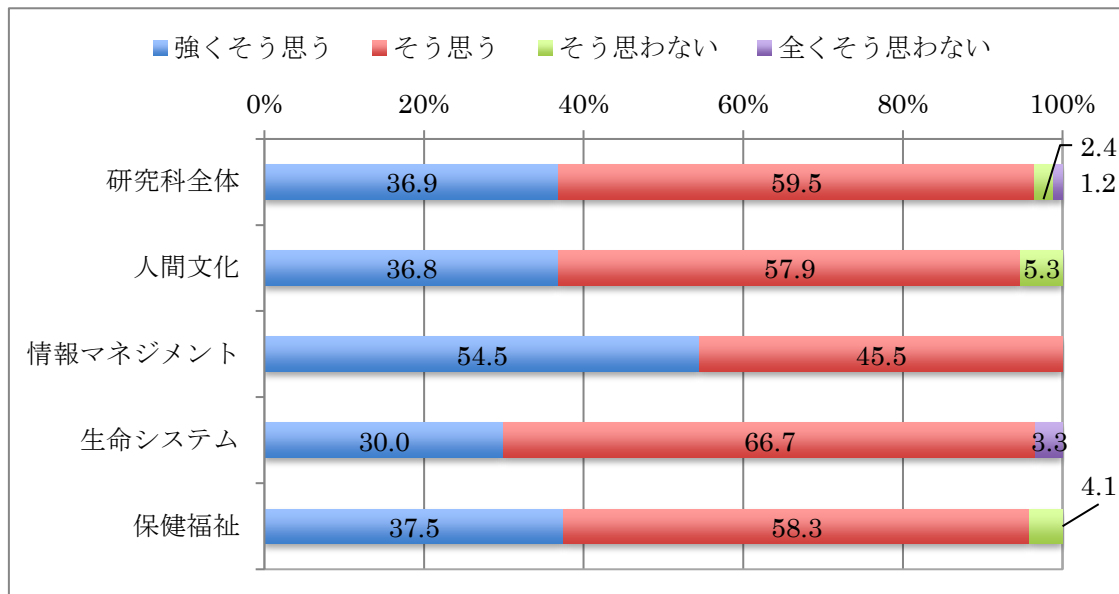
4. 教員の授業に対する準備は十分で、内容がよく整理されている。



研究科全体で肯定的な回答は91.7%であった。

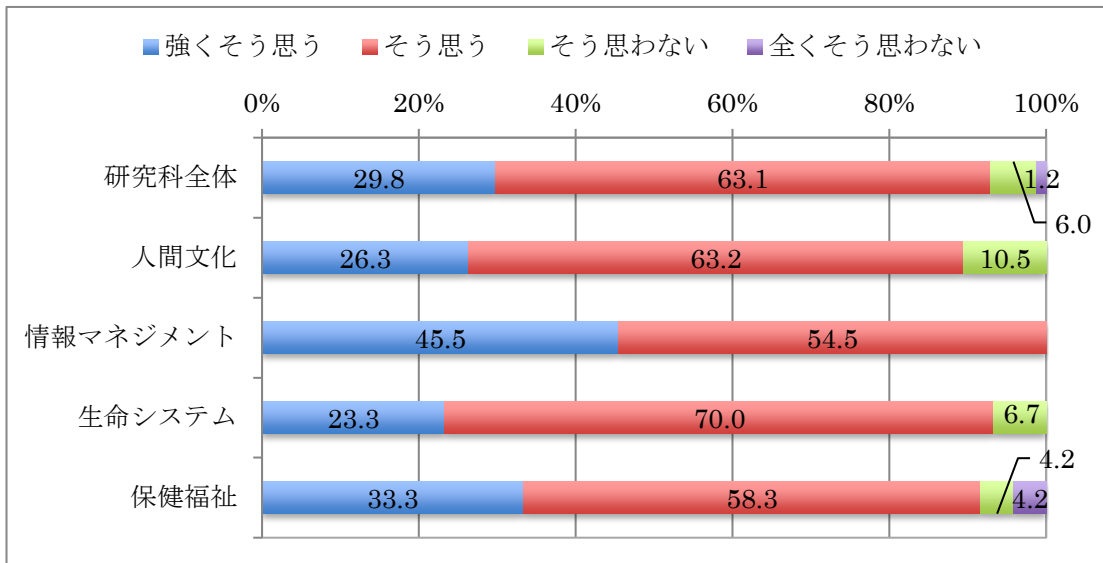
いずれの専攻でも肯定的な回答はおおむね約80%以上となっているものの、昨年度（95%以上）と比較すると低い数値となった。

5. 教員の研究内容や専門領域が伝わる良い授業が行われている。



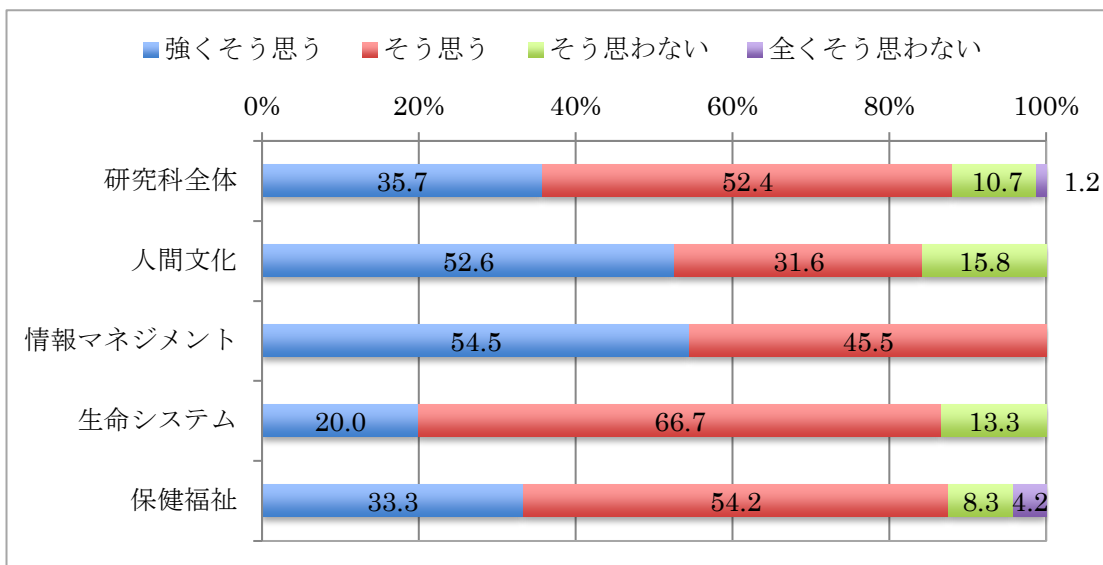
いずれの専攻でも「強くそう思う」または「そう思う」と肯定的な回答をした割合は90%以上となっており、研究内容や専門領域の伝わる良い授業であったと感じている。

6. 授業内容は大学院の授業として適切に行われている。



いずれの専攻でも、おおむね 90%以上が授業内容は適切であると肯定的に回答している。

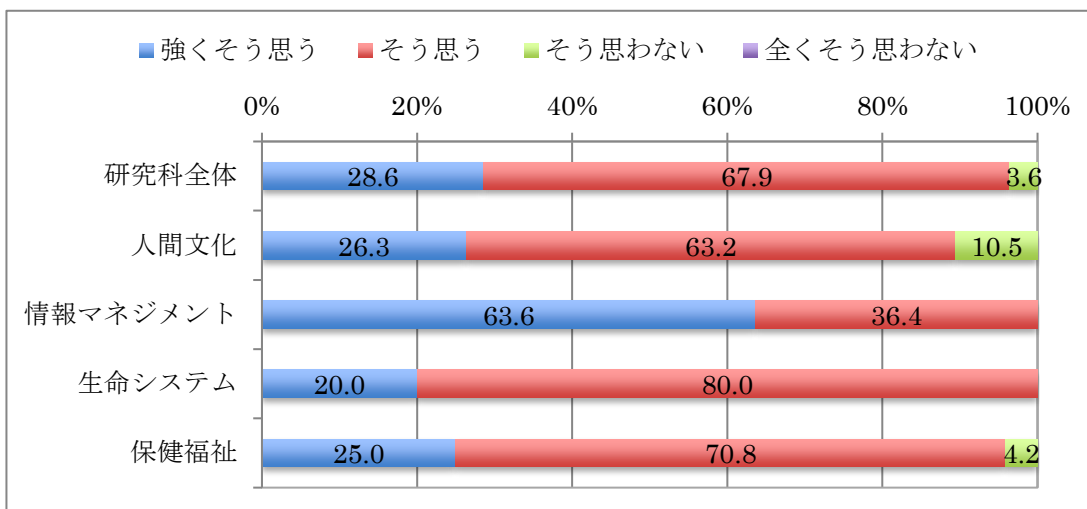
7. 授業に関し、教員の熱意が感じられる。



研究科全体では、教員の熱意が感じられるかという質問に対して 88.1%が「強くそう思う」または「そう思う」と回答している。

【成績評価に関する質問】

8. 授業の成績評価は適切に行われている。

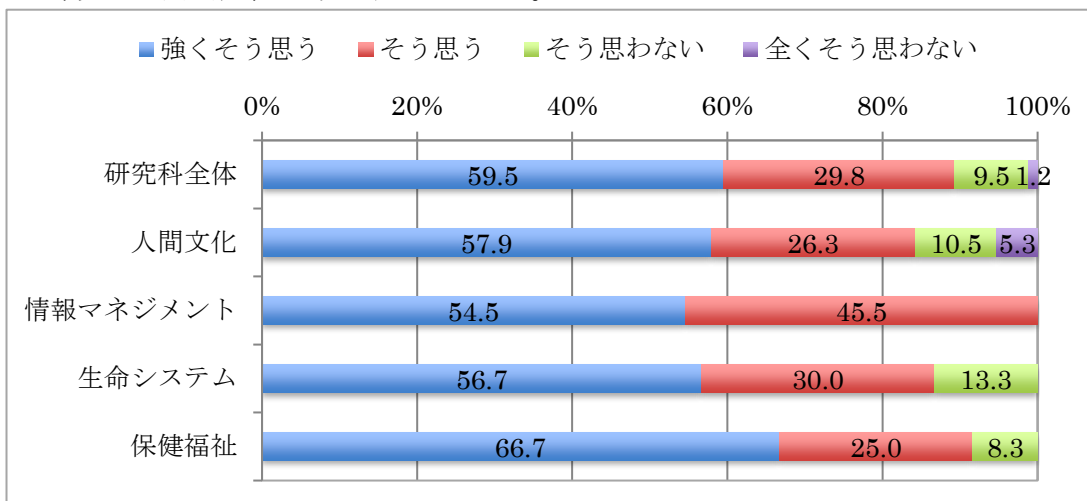


研究科全体では、肯定的な回答は96.5%であった。

情報マネジメント専攻、生命システム科学専攻において100%が授業の成績評価は適切に行われていると回答した。

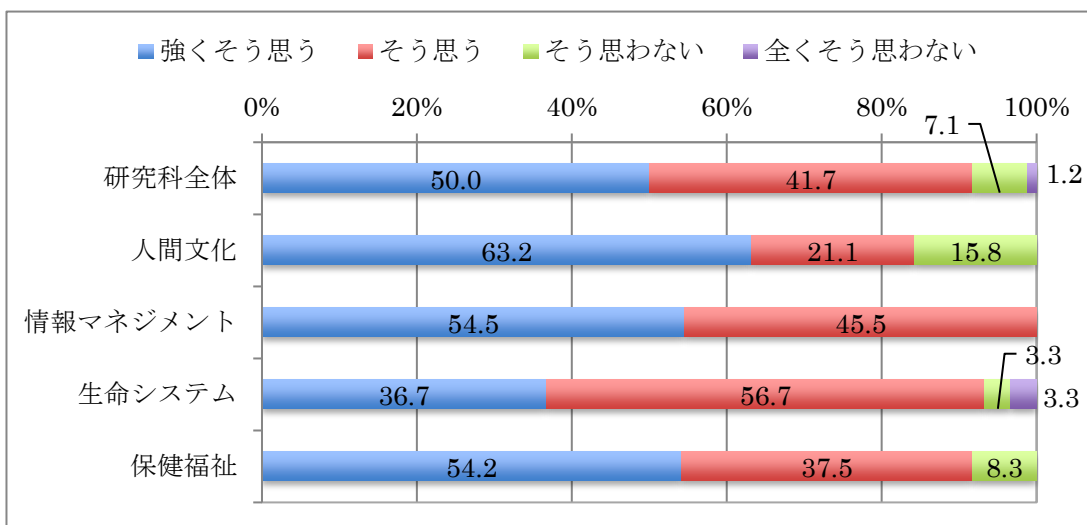
【研究指導に関する質問】

9. 専攻での研究指導は適切に行われている。



研究科全体では、89.3%が満足しており、研究指導は適切に行われている。

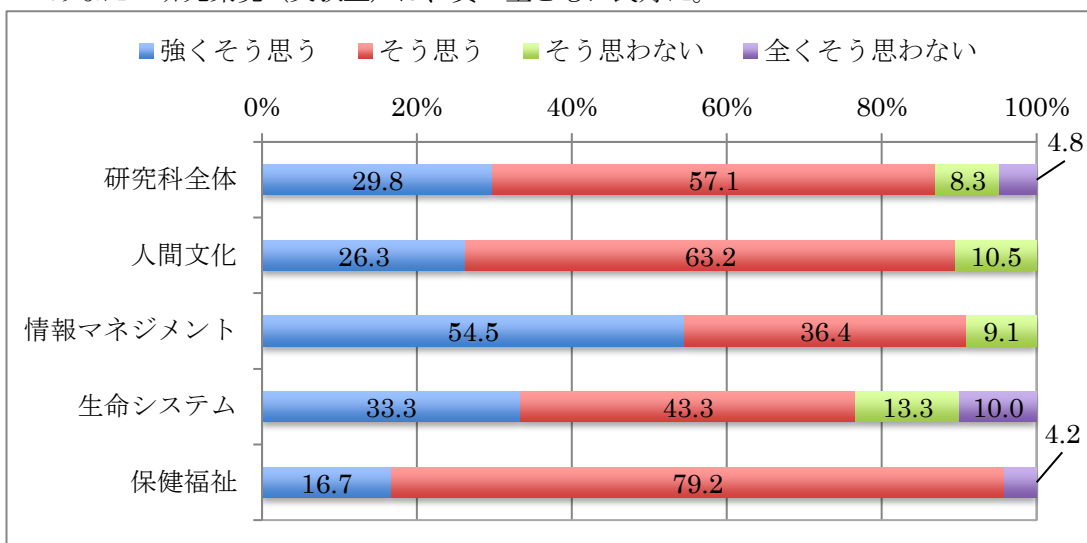
10. 現在取り組んでいる研究テーマに満足している。



研究科全体では、91.7%の学生が研究テーマに満足している。

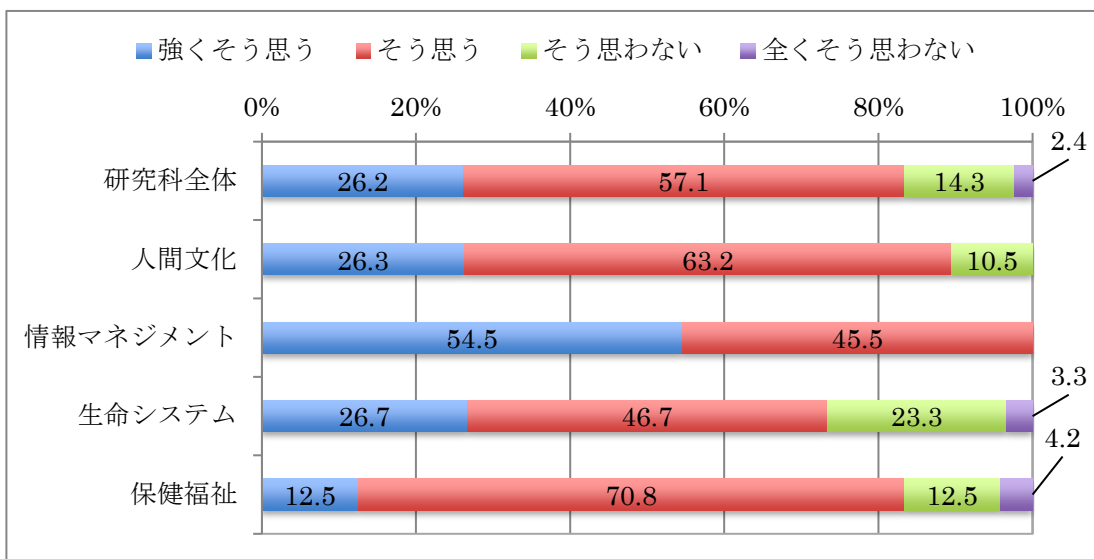
【研究環境に対する質問】

11. あなたの研究環境（実験室）は、質・量ともに良好だ。



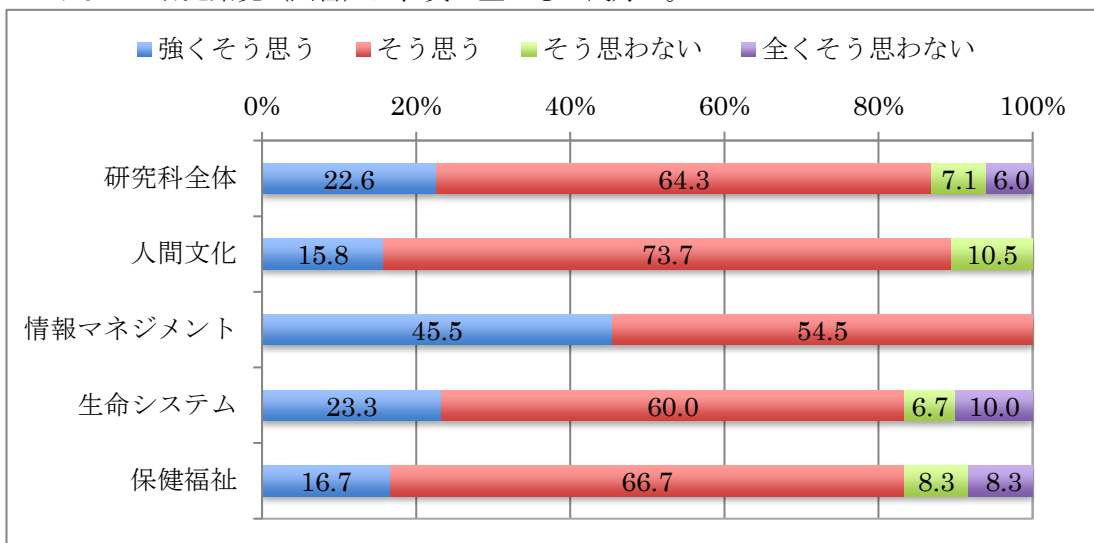
研究科全体では、86.9%が肯定的に回答し、R5年度（77.9%）から9.0%向上した。

1 2. あなたの研究環境（実験機器）は、質・量ともに良好だ。



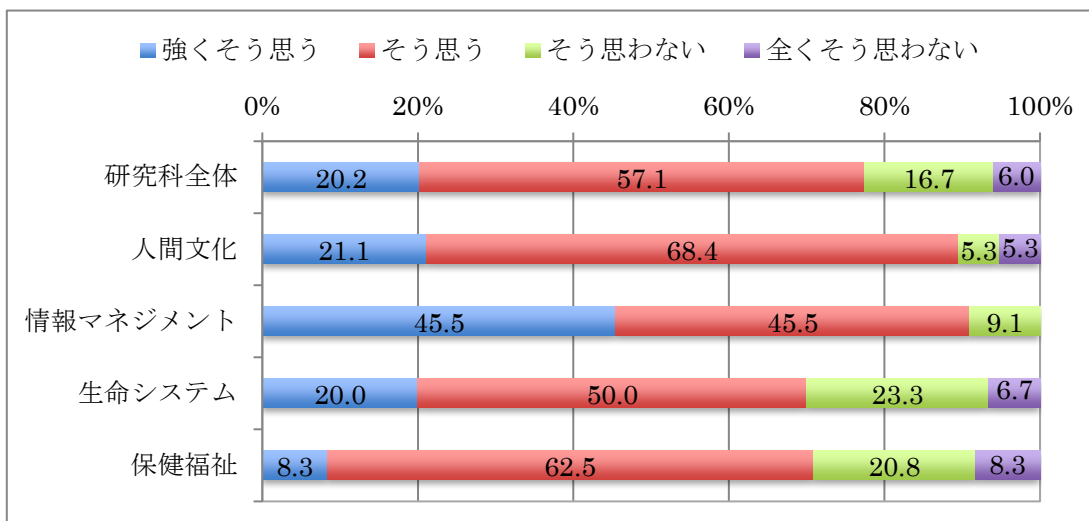
研究科全体では、肯定的な回答が 83.3%であった。

1 3. あなたの研究環境（図書）は、質・量ともに良好だ。



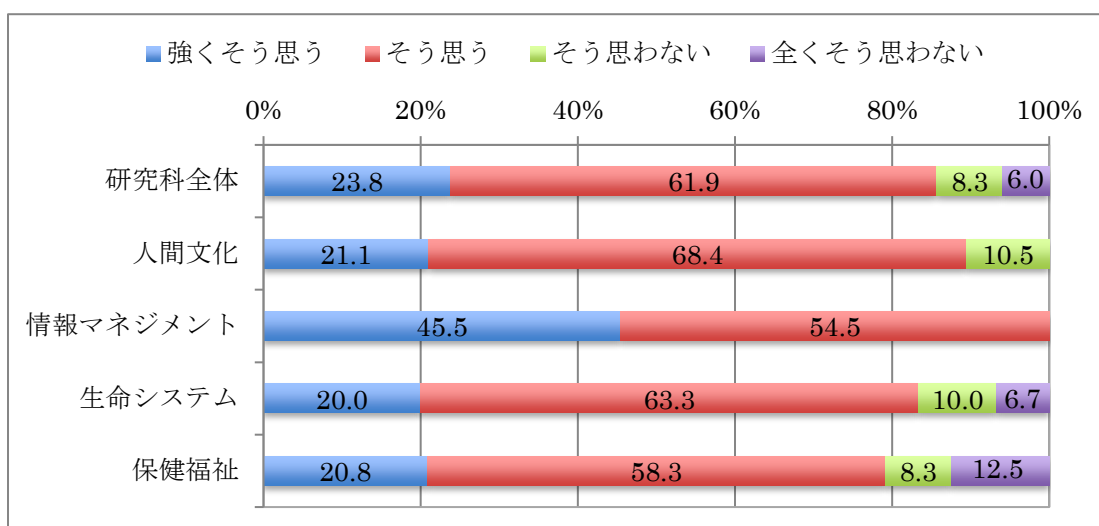
研究科全体では、肯定的な回答が 86.9%であった。

1 4. あなたの研究環境（コンピューター）は、質・量ともに良好だ。



研究科全体では、肯定的な回答が 77.3%であった。

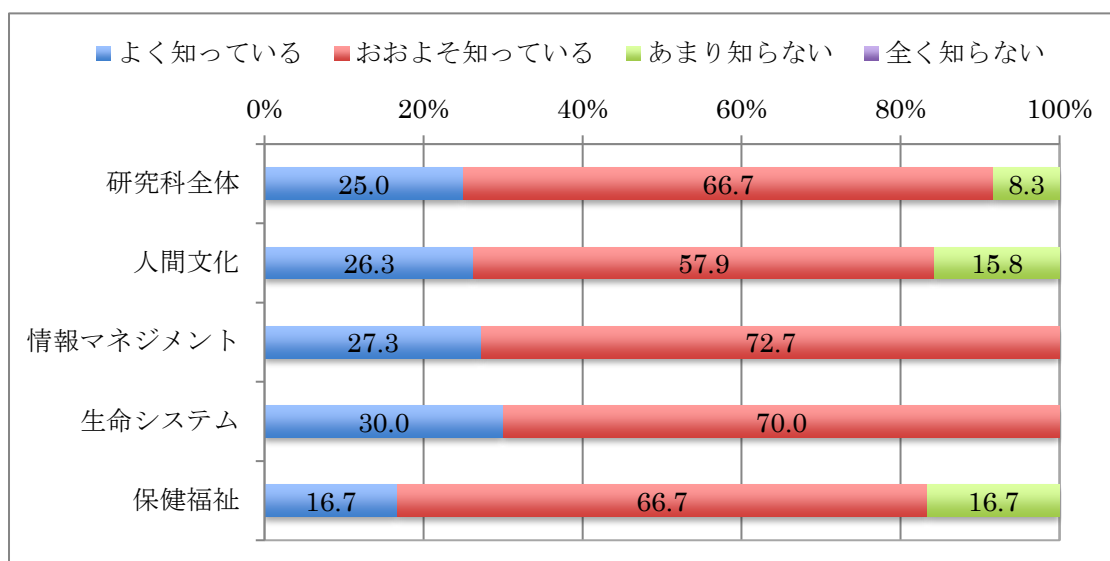
1 5. あなたが利用できる大学院生としての研究用スペースは適切だ。



研究科全体では、85.7%が肯定的に回答し、R 5年度（75.4%）から 10%以上向上した。

【学位取得に関する理解に関する質問】

16. あなたは在籍する課程において、学位を取得するためにはどのような前提条件を満たさなければいけないか、研究科や専攻の規則や規程を知っている。

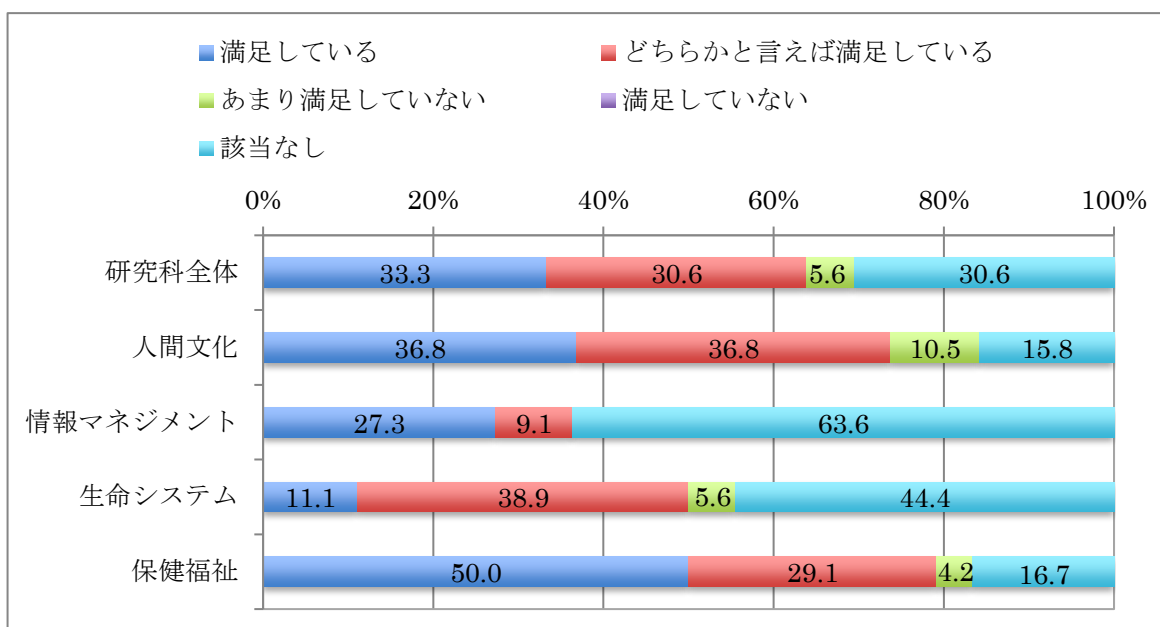


研究科全体では、肯定的な回答は91.7%であり概ね周知されている。

各専攻における「学位論文審査及び最終試験実施要領」及び「学位論文に係る評価基準」については、本学ウェブサイト公開している。

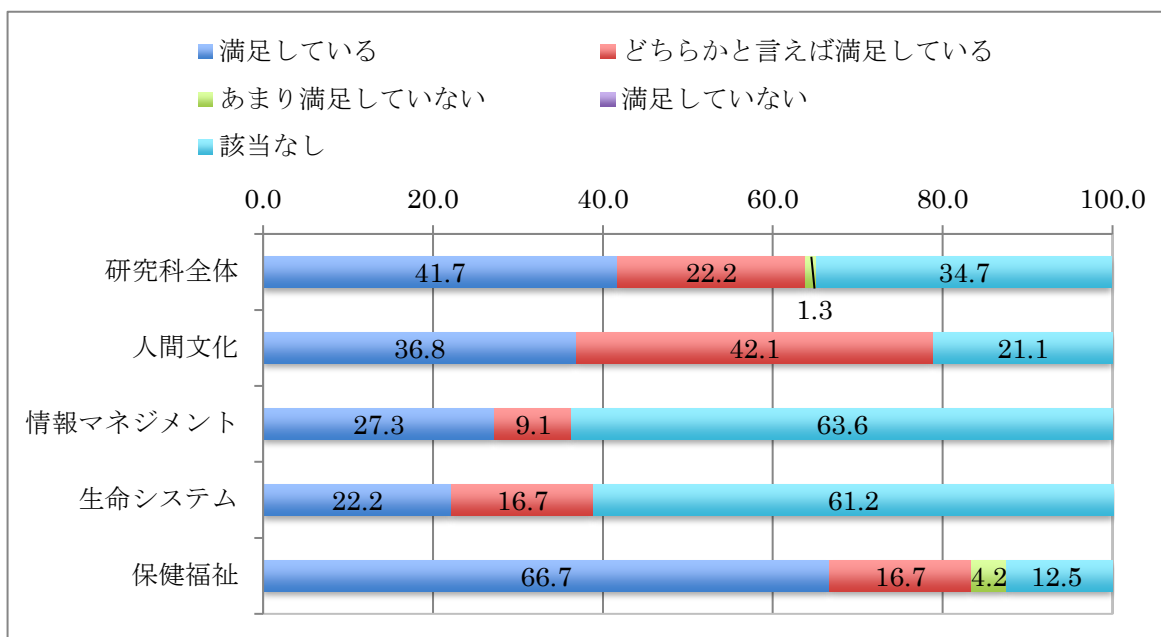
【オンライン講義の満足度】

17. 今年度のオンライン講義の満足度（該当する講義があった場合）



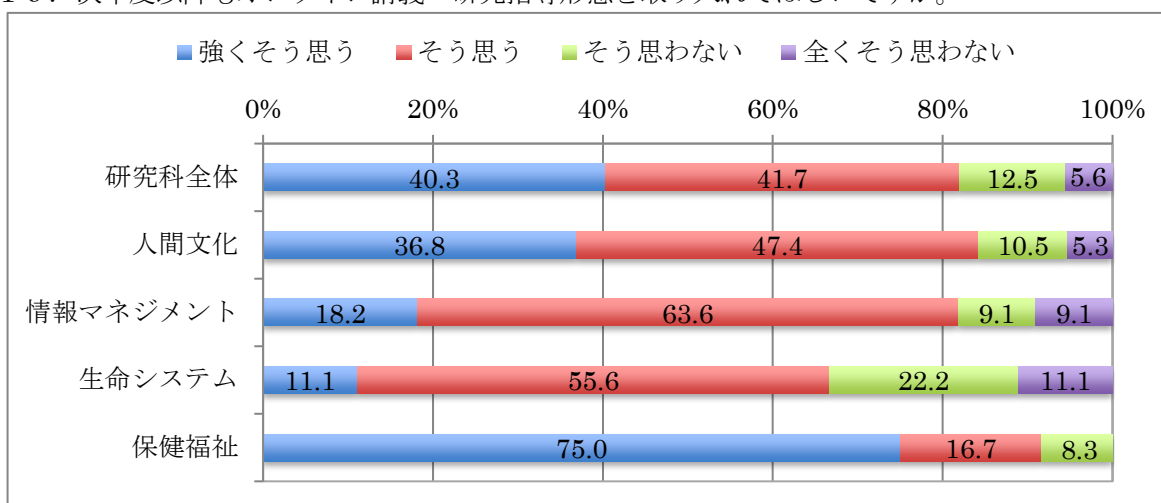
研究科全体では、肯定的な意見が63.9%（該当なしは30.6%）であり、概ねオンライン授業に満足している。

18. 今年度のオンライン研究指導の満足度



研究科全体では、肯定的な意見が63.9%（該当なしは34.7%）であり、概ねオンラインでの研究指導に満足している。

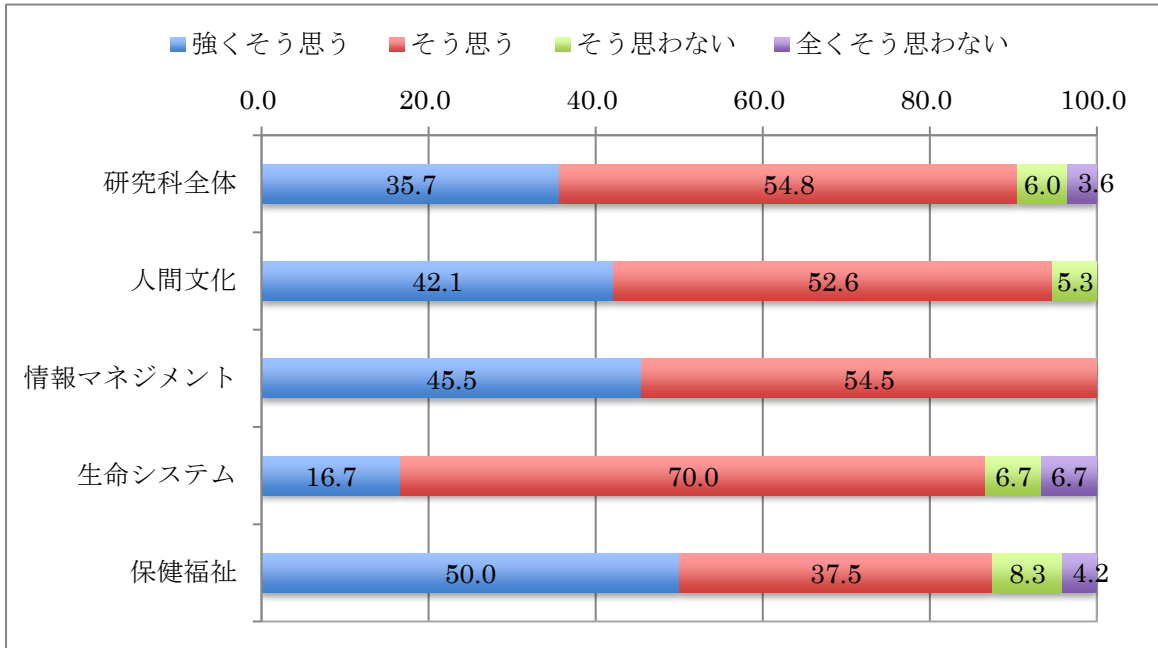
19. 次年度以降もオンライン講義・研究指導形態を取り入れてほしいですか。



研究科全体では、肯定的な意見が82.0%であった。

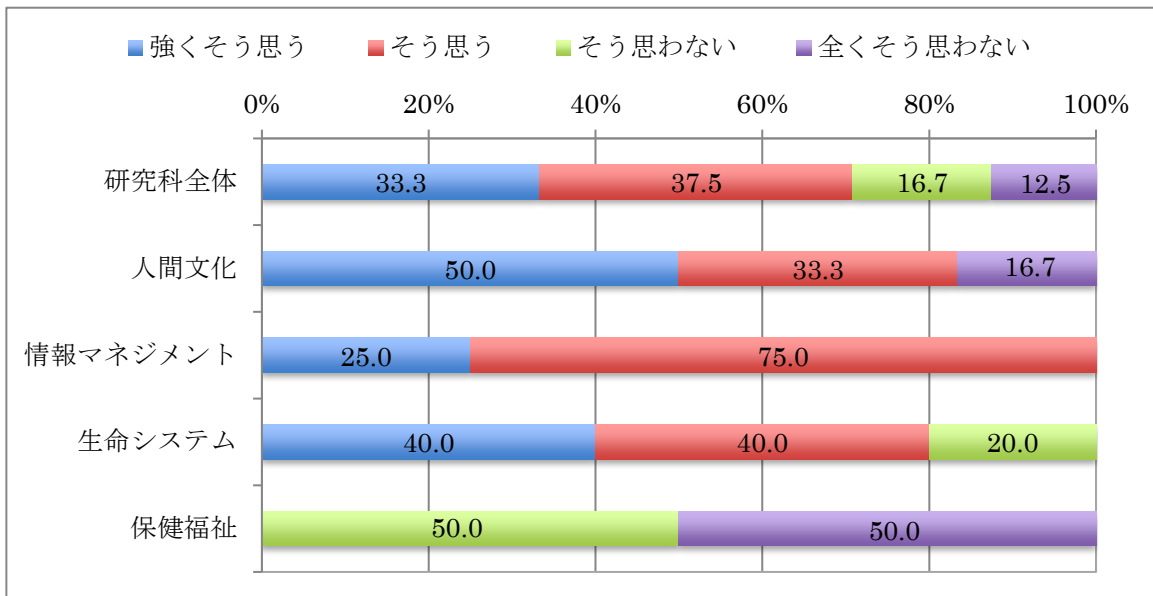
【大学院に対する満足度に関する質問】

20. あなたは総合的に判断して、この大学院に満足している。



研究科全体では、肯定的な回答は 90.5%であり、専攻別でもいずれも 85.0%以上が「強く思う」「そう思う」に回答している。

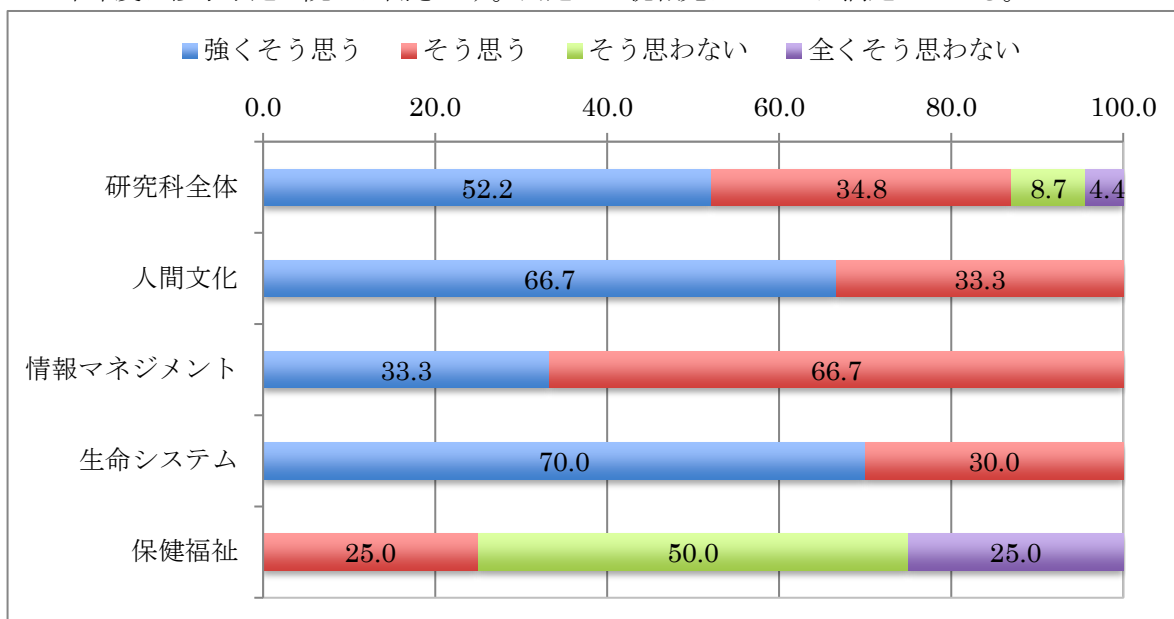
21. 本年度修了予定の院生のみにかきます。大学院内での就職活動のサポート（ガイダンス等の案内、キャリアセンター利用、情報提供等）に満足している。



研究科全体では、肯定的な回答は 71.5%であり、昨年度 (89.6%) から 18.1%満足度が低下した。

保健福祉学専攻の回答で「そう思わない」「全く思わない」が占めたことは、社会人学生が多く就職活動のサポートを利用する機会の少ない専攻の特性も一因と考えられるため、次項目と併せて回答項目の検討が必要か。

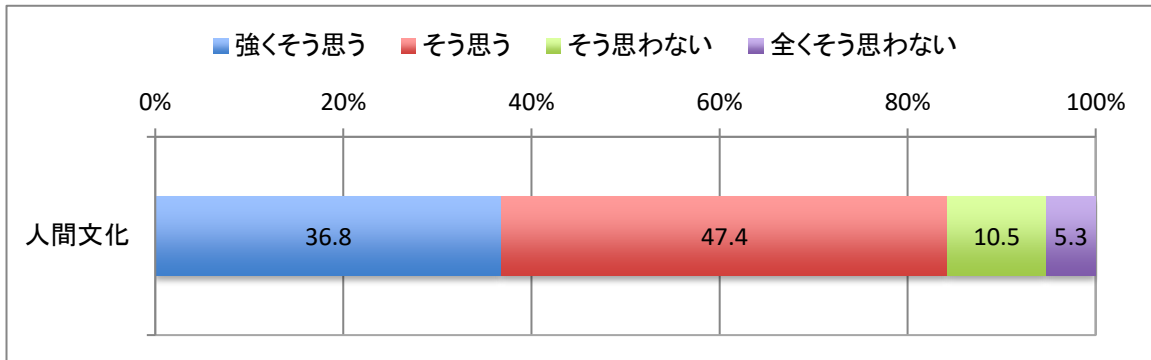
2.2. 本年度に修了予定の院生に聞きます。内定した就職先については満足している。



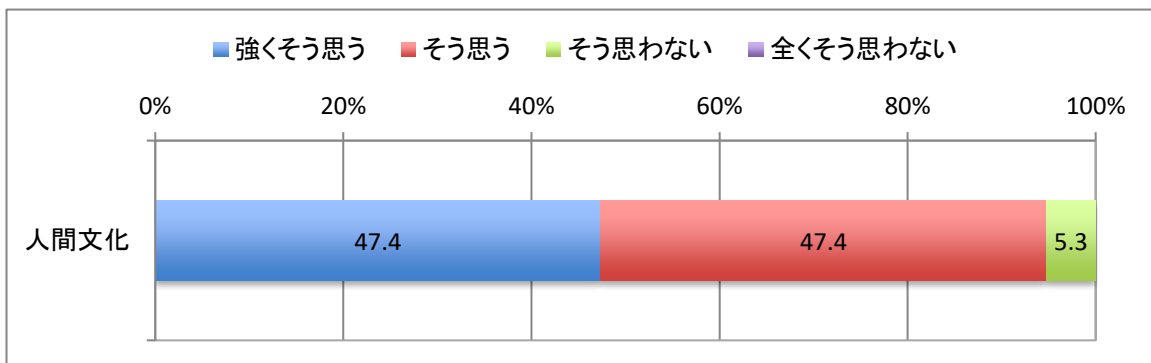
研究科全体では、88.0%が肯定的な回答である。保健福祉学専攻以外では、100%の学生が「強く思う」「そう思う」と回答している。

【人間文化学専攻独自の設問】

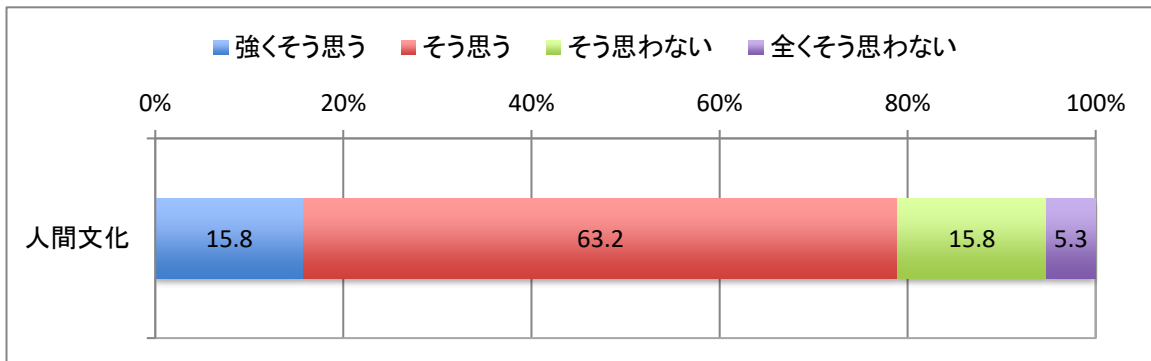
1. 大学院生に対する支援事業（TA/RA、研究活動支援）に満足している。



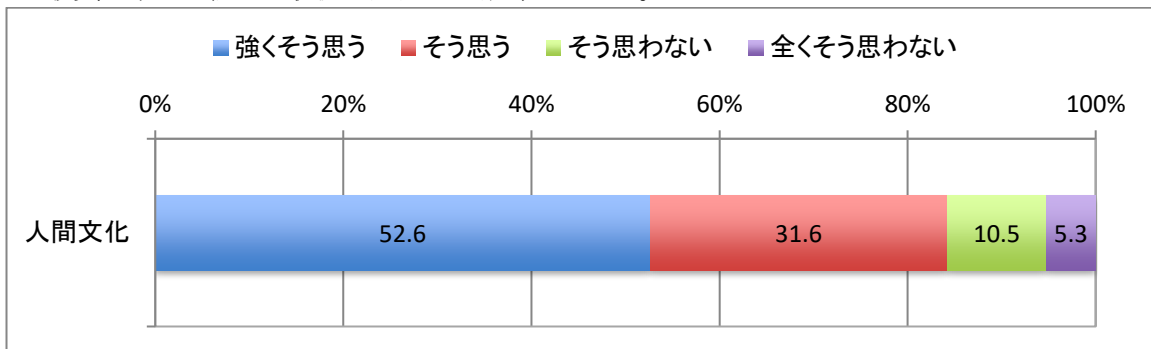
2. 授業の履修状況は、当初の計画通りである。



3. 研究の進捗状況は、当初の計画通りである。

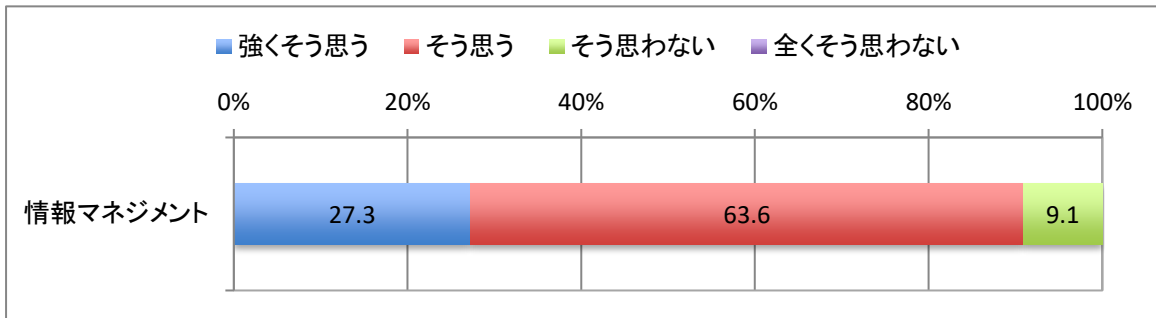


4. 教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。

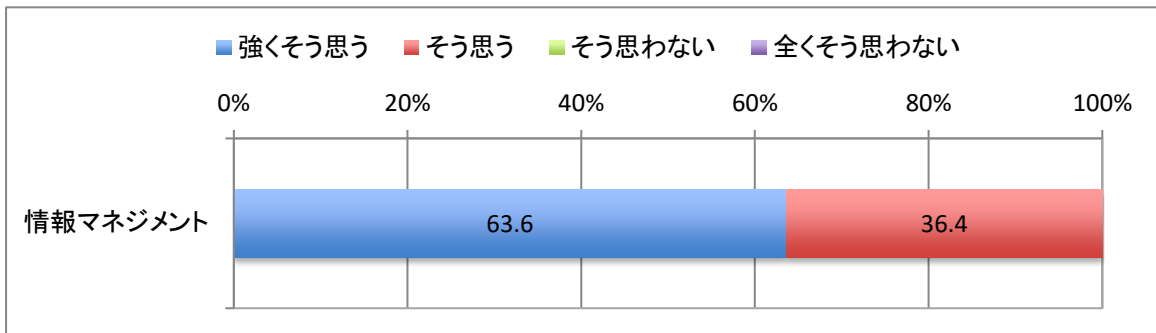


【情報マネジメント専攻独自の設問】

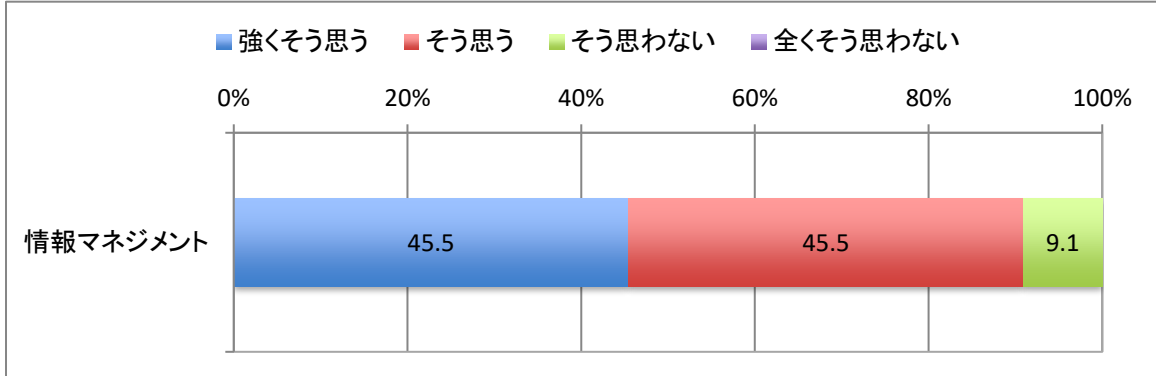
1. 研究は計画通りに進んでいる。



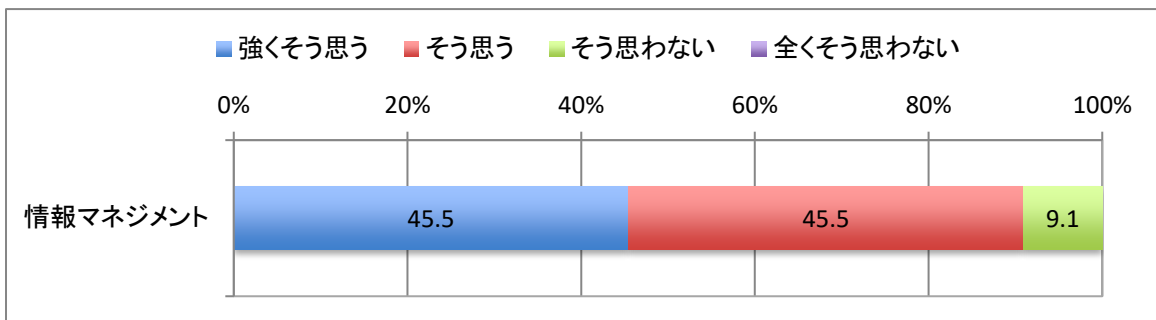
2. 教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。



3. あなたの研究室の通信環境は、質・量ともに良好である。

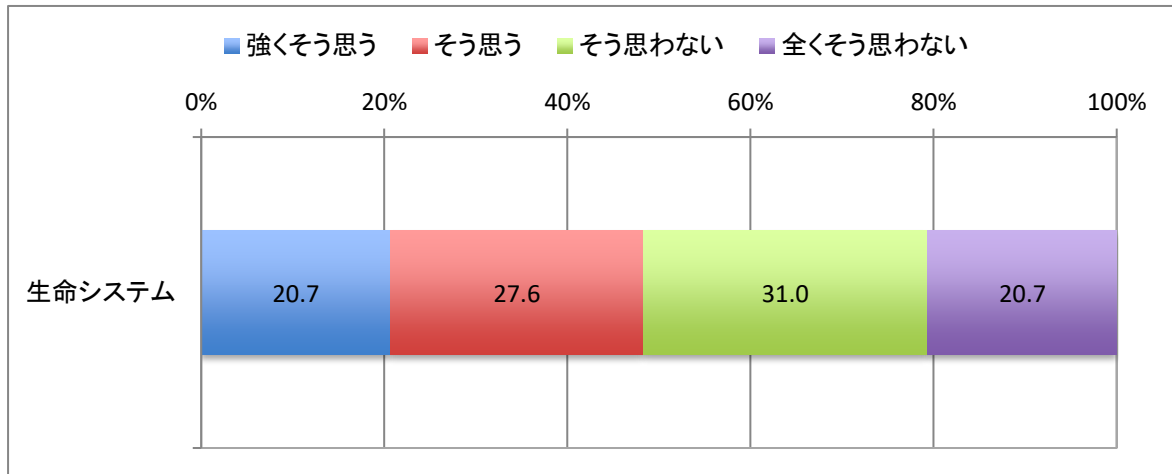


4. 大学院生に対する支援事業（TA/RA、研究活動支援）に満足している。

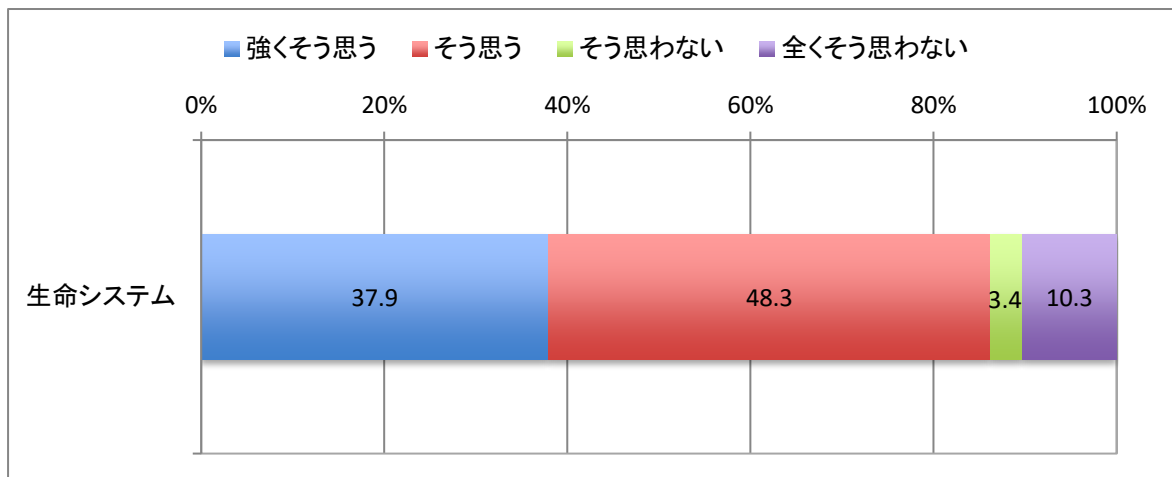


【生命システム科学専攻独自の設問】

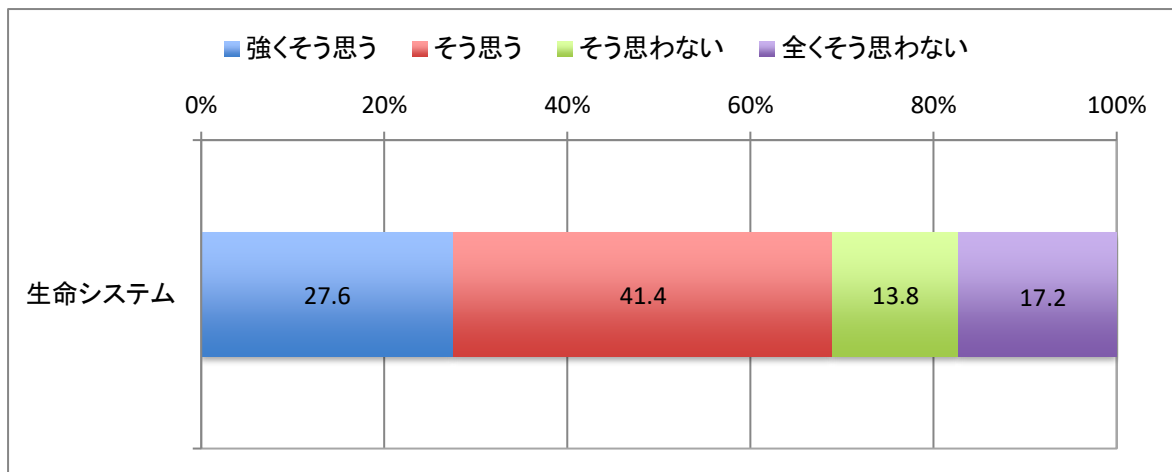
1. あなたの研究室の通信環境は、質・量ともに良好だ。



2. 専攻における研究指導の体制（博士前期：主指導と副指導 1 名、博士後期：主指導と副指導 2 名以上）は現状で十分である。

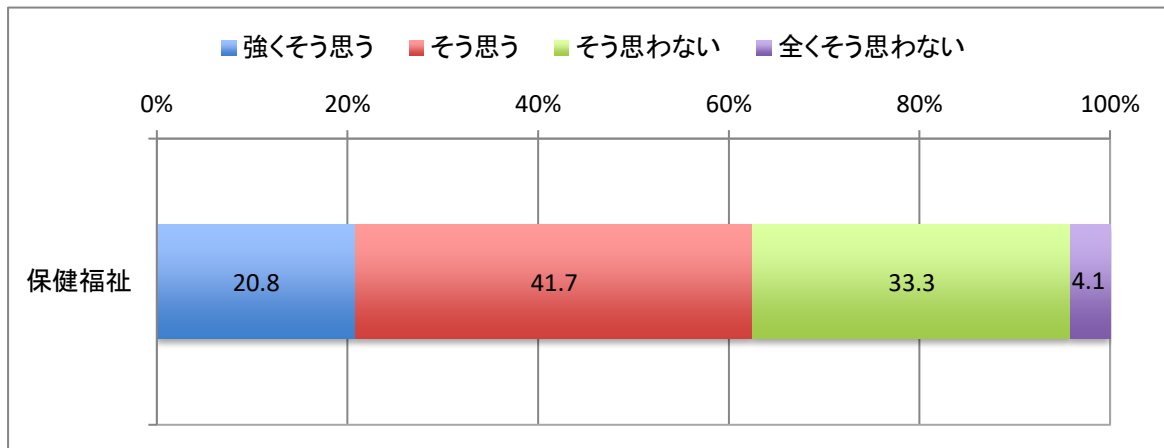


3. 大学院生に対する支援事業[TA/RA、研究活動支援（学会参加等）、TOEIC-IP 受験料補助等]に満足している。

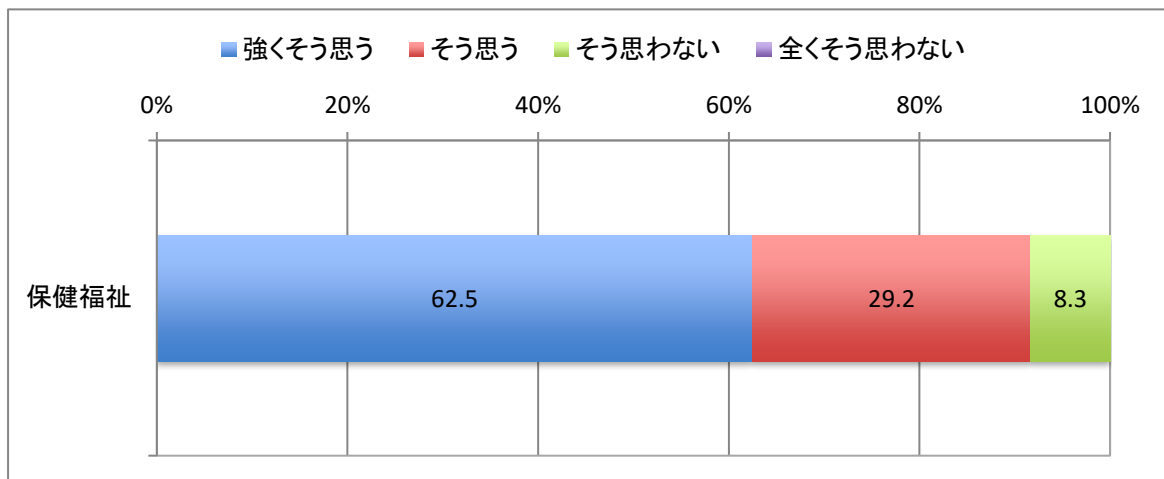


【保健福祉学専攻独自の設問】

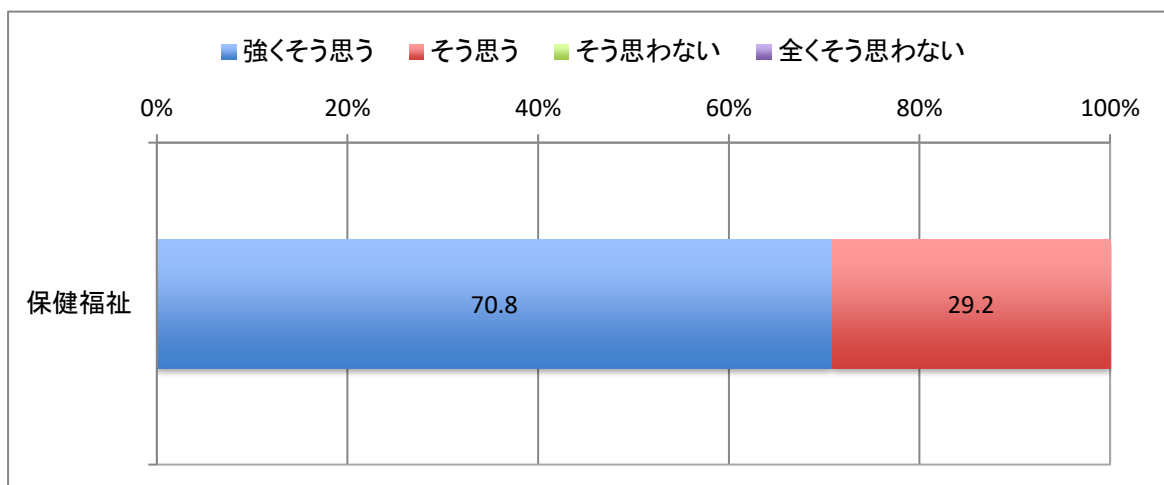
1. 計画通りに学修が進んでいる。



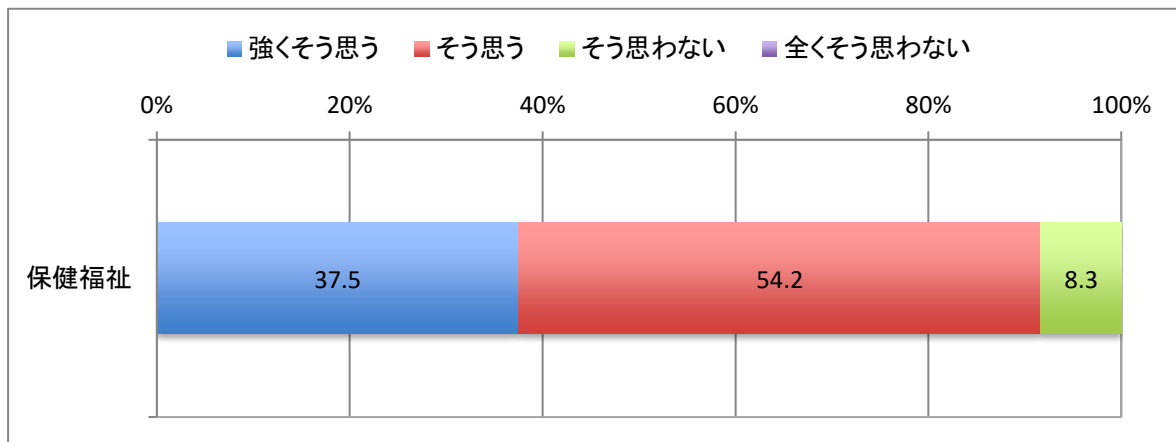
2. 教員は学生の個別の状況に配慮して指導している。



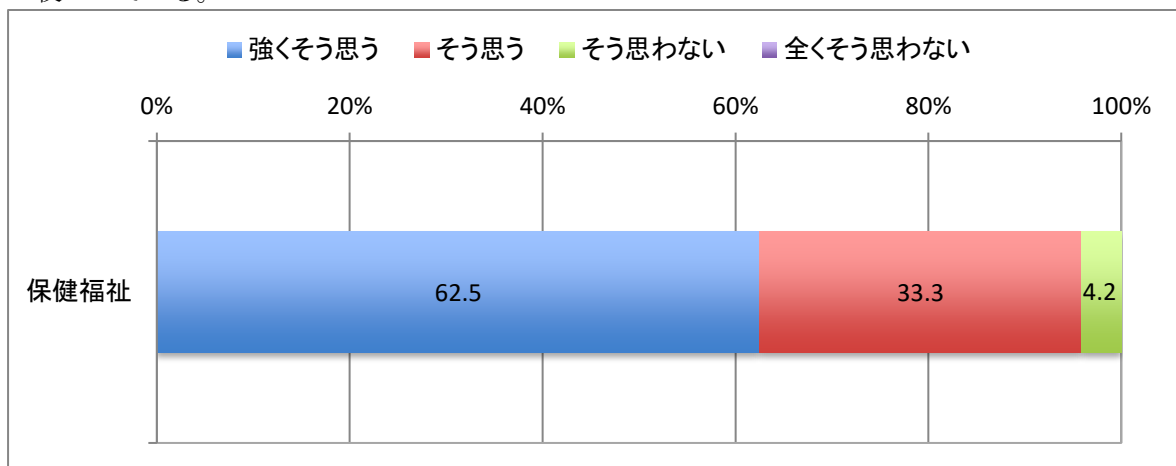
3. 大学院での学修が専門職業人としての成長に役立つ。



4. 大学院での学修はリーダーシップ能力獲得に役立つ。



5. 大学院での学修が保健医療福祉の専門職、あるいは教員としての研究能力向上に役立っている。



6. 大学院生に対する支援事業【TA・RA、研究支援活動支援（学会参加等）】に満足している。

